「『総合的な学習の時間』の活用について」

京田辺市立薪小学校

研究主題：「生き生きと輝く子の育成」ー情報教育を切り口とした「総合的な学習」をとおしてー

本校の研究の概要

１　主題設定の理由

本校は、開校２０周年を迎えた。校区は旧村と新興住宅地が混在していて、豊かな自然と歴史遺産に恵まれた環境にある。このような環境で育った本校児童は、素直で純朴な子どもが多い。しかし、自然及び社会における体験の不足やコミュニケーション能力の弱さ、何事にも前向きに取り組んでいこうとする姿勢の弱さといった今日的な課題も抱えている。そこで、このような恵まれた地域の自然や社会にも目を向けつつ、主体的に、自ら生き生きとかかわっていけるような児童を育成していくことをめざし、「生き生きと輝く子の育成」を研究主題として設定した。

また、平成９・１０年度の文部省「インターネット利用実践研究地域指定事業」、及び１１年度の「光ファイバー網による学校ネットワーク活用方法研究開発事業」の指定も生かしながら、情報教育を切り口とした「総合的な学習」をとおして研究・実践を推進していきたい。

２　もとめる子どもの姿

【自ら学び、行動する子】

身の回りの「人」「自然」「社会」などに興味・関心を持ち、自らの課題を追究する。その過程の中で、追究力（調べる、考える、学ぶ等）、判断力、思考力、表現力などの力を伸長し、自ら行動する実践力を身につけた子どもを育てたい。

【心のふれ合いをとおして、共に成長する子】

豊かな体験を取り入れた学習活動をとおして、身の回りの人々とのコミュニケーションを深め、互いのよさを認め合い刺激し合うことによって、「ゆたかな心」をもった薪小の子どもを育てたい。

３　研究全体構想

学　校　教　育　目　標

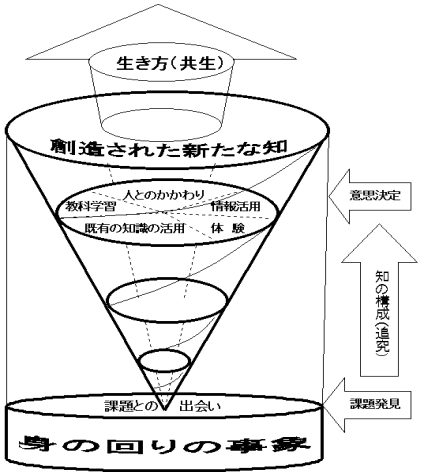
生きる力（心）を育てる薪小教育の実現

児童・地域の実態

もとめる子どもの姿

研　究　主　題

育　て　た　い　力（別　紙）



４　研究組織

校　長

教　頭

重点推進委員会

全体研究会

教科部会
各教科部

ブロック会

３年	４年	５年	６年
ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ	ﾌﾞﾛｯｸ

情報教育部
視聴覚教育部
図書館教育部

5　研究内容・方法及び体制

（1）研究内容

・情報教育を切り口とし、身近な地域素材（自然、歴史遺産、地域産業等）に目を向けた学習をとおして研究主題に迫る。
・本校独自のカリキュラムの検討及び作成を行う。
・授業研究をとおして、評価及び支援のあり方についての研究を行う。

（2）研究方法及び体制

・本校児童の実態を的確に把握し、全教職員で共通理解を図りながら研究を進める。
・校内の研究・研修を充実させるとともに、先進校の実践にも学びつつ、教職員の資質向上を図る。
・重点推進委員会を中心に、全教職員が一体となって指導にあたる。
・自然体験、社会体験、生産活動、問題解決的な学習等を積極的に取り入れる。

6　各学年の単元構想

３年『ケナフを育てよう』

[活動内容]　・ケナフを育てよう（栽培活動）
・ケナフって何だろう（調べ学習）
・ケナフからのメッセージ（生活・地域への広がり・実践）

４年『ごみ博士のごみ問題』

[活動内容]　・リサイクル、ダイオキシン、ポイ捨て等（自ら課題を見つけ追究していく）
・ビデオ放送、ホームページ、ポスター等（まとめ・表現する）
・カンやビンを集める、ゴミを出さない工夫等（実生活に生かしていく）

５年『生命のつながり』

[活動内容]　・米つくり、野菜つくり（栽培・観察活動）
・精米、米の料理、カボチャ料理、収穫祭等（個人の課題の追究）
・まとめ、発表（表現し、生活に生かす）

６年『わたしたちの町「薪」』

[活動内容]　・一休寺、一休寺納豆、茶の湯、甘南備山等（課題を見つけ、追究する）
・「薪の環境を考えよう」「僕・私の薪を自慢しよう」（生活に生かす）

7　成果と課題

(1) 成　果

（子ども）
・学びたいことを学べる喜び・楽しさを味わうことができ、意欲的・能動的な学習姿勢になってきた。
・自分なりの計画を立て、追究していく姿が見られるようになってきた。
（教師）
・子どもの学びを共に楽しむという指導観をもつようになった。

(2) 課　題

（子ども）
・学習のめあてをしっかりと持ち続ける必要がある。
・コミュニケーション能力をさらに育てていく必要がある。
(教師)
・柔軟に一年間を見通した計画を持っておく必要がある。
・子どものわずかな質的な変化をとらえ、子どもの活動に応じた適切な支援を加え、価値ある活動を仕組む必要がある。
・個に応じた支援のあり方（グループ構成、課題意識の持たせ方・つなげ方、まとめ方等の意識化）をさらに研究する必要がある。
・教師が地域をよく知ることとあわせて、積極的なアプローチが必要である。